



佛子宗貫



蓮如上人  
一々  
御返答

蓮如上人泉劬貝塚久昌寺御逗留ノ砌紀州冷水浦喜六大夫友御出ノ道スガラ 折節 御中食被召上度北永  
穂 權守ト申ス社人ノ家 立寄ラセ玉ヒハ 木杯御貰イナサレ御中食召上候ト也 此權守ト申スハ社人ノ事  
ナレバ日比神道ヲ学ヒ佛道ヲ嘲ケリシ者ナリシガ 蓮如上人ノ御出ヲ悦ヒ哀レ 翺見ント思ヒ御傍近ク立寄り  
申ヤウイカニ修行者貴僧 何宗カ 知ラ子トモ定シテ後生願レン少ト承ラント申カヽル其時蓮如上人仰ラレケ  
ルハ宗々万法二分レ (破れて欠損) カ ムナシカラント仰セケレバ 權守返シテ (破れて欠損) 魄去リテ  
何国ニカアラント 蓮如上人答曰ク一宗教 (破れ欠損) 誠トノ一ツ止ル事佛力ナセルナリ 一宗教ヨ  
リ外ニ人我ノハカライヲ入レズト仰セケリ 扱テ又タ貴殿ハ死テ魄去テ何国ニヤアラント仰セラレケレバ其時  
權守人我ノ竹ヲ振ルマハズ天地陰陽ムナシカラズ天ヨリ下リテ天ニ歸ル也ト答フ尔ラバ常ノ行ヒハ何ノ勤メ  
專一ナルヤト仰ラレケレバ權守答テ云ク 仁義礼智信ノ五ツハ專ラノ行ヒナリト人我ノ竹ヲ振ルマワズ申シケ  
レバ其時蓮如上人重テ御挨拶モナク御称名御喜ヒホロ／＼ト御涙ヲコボシ玉ハ 權守我慢ノ鼻高クカヽル修  
行者ノ分トシテ此權守ニ不レ及事嘸ヤ残念ノ涙ヲ流ス事 己カ徳ヲアラワレナリトイカツガマシク申ヤウハイカ  
ニ修行者貴僧落涙ノ様子去來承ント申シケレバ蓮如上人仰ラレケルハサレバトヨ 分ケ登ル麓ノ道多ケレド  
同シ高根ノ月ヲ詠ルトカヤ 夫レハ 上根上智ノ人トテ月ヲ見ルモ在レドモ貴殿見ラルヽ通り愚僧 下根最劣  
ニシテ己レト登ルカラナシ爰ニ難レ有 下棧相應ニシテアナタカラ見セテ下サルヽ月ヲ見ルナリ是レヲ他力ノ法  
ト申スナリ 實ニ下根最劣ニシテ願行ノ足手ハ (破れて欠損) 根ノ手ハスクミ智惠ノ眼ツツブレ(破れて欠損)  
手足ニテ月ヲ見ルコト アタハザル (破れて欠損) トコロ 爰ニ難レ有 阿弥陀如來ト申シ奉ル佛 (破れて  
欠損) ル者ヨリ愚者 男ヨリ勝レテ罪深キ女ヲ御助ケナサレ其上願行ノニツモ入ラズ 布施持戒ナド云 六  
ツカ口持參物モ不レ我等裸ナリニテ手振りテ他力ノ法水ヲ雜行雜修ノ垢ヲオトシ一念皈命シ奉ルバカリ 愚僧  
ノ儘ナガラ如來ノ大悲ヲ以テ速カニ繫拌安樂ノ悟リノ身トナリ魄 西方十萬億土ニアレドモ去ルコト遠カ  
ラズト在レハ是レヲ即得往生ト申テ此廣大ノ蓮花ニ端坐サゼンバ阿弥陀如來トイフ佛ハナルマジト誓イヲ立  
テサセラレ其時無量ノ諸佛御舌ヲ出サセラレ若シ如來ノ御誓ニ偽リ在ラハ此舌ヲエランシテ舌ヲ无ヒ カタワ  
佛ニナラント云フ 証誠護念ニ立タセラレタル程ノタシカナル愚僧ガ往生ナルルニ今貴殿天ヨリ下リテ天ニ歸  
リ其上常ノ行ヒハ 五常ヲ守リ身モ心モ清淨ニシテト 常住心口ヲ苦シマセラルヽ様子ニ付キイヨク 如來ノ大悲ヲ  
思ヒ出シ思ハスモ落涙セシコトナリト仰セラレケレバ 其時權守大キニ驚キ実佛法ト云物 理ノ早キ物カナ  
如來不思議ノカラヲ持テ無行無我ニシテ悟リヲ開キ 但受諸樂ノ身トナルコト (破れて欠損) 所也 サラハ

往生ノ一段聞カマボ (破れて欠損) 宿善ノ涙タ禁シガタシ後悔ノ心 (破れて欠損) 打破カレ五躰投ジテ蓮如上人ヲ称シ奉リ (破れて欠損) マシマサズサラバ 御弟子ニナラントシテ兩手合セ涙トトモ一申様 私ガヤウナル者モアナタノ大悲ニテ御助ケ下サルヤト申シ上レハ大ニ御悦ヒナサレ實ニアナタノ御念力ニテ権守ガ人我ノハタ忬コ御打破キ先非ヲ誤ル哀サヨト共ニ御涙ヲ流サセラレイカニ権守神道ノ教ヨリハ心易キ安心ナリ 今貴殿ガ落涙定テ此蓮如ガ弟子ニナリ度望ミラント仰セケレバ其時権守私ヨリ御願ヒ奉レニ申上ト存スル所 アナタヨリ被ニ仰下候思ア口塞ニ再來ノ御身ノ夫ト難レ有奉レ存 サラバ御剃刀下シ オカルベシト申シ上レバ上人御悦 早速御弟子ニナサレ其名ヲ淨心ト下サレ 夫レヨリ冷水 御出ノ御供ラレ御傍近ク御給仕シイヨク御法聴聞シ御相續セラレタリ 實ニ上人ノ御徳ノアラワレ佛願ノ御不思議ニテ火急ニ御弟子トナリケレドモ 神道ヨリ一念發起ノ事ナレバ佛書曾テ拜見セズ 正信偈和讃御文章其外御聖教何ニゴトモ心口ニスメザルコトドモ 其度ゴトニ上人様 御尋申シ上レバ 上人モ哀レニ思召シ文釋ニハ貴殿ガ届ガタキ事トヲ思ヒ汝ヲ尋ル事ドモ皆タト人ヲ以テサトサシメン盲人モ手ヲヒカレテ早ヤ道ヲ行ク如ク是レマタ佛智ノ不思議也 佛ノ御ナシハザ也 一々御尋申上候事誓フ以テ御知ラセノ事ドモ

一 権守申シ上ル様 安心ヲ取りテ淨土ハ參り安ケレドモ 信心ヲトル人マレナレバ淨土ハ參り安フシテ人無しト申ス事承り度ト申上候バ 上人聞シ召サレ狭キ尋子也 聞立ノ其方ナレバヤワラカタト人ヲ以テサトスベシ 或ル盲人馬ニ乘テ行クニ馬無性ニカケル盲人ノ事ナレバ跡先カハ見ズ オソロシサニ手ヲ上ゲタレバ松ノ枝ニサワリ此枝ヲシカト持テ取付キシニ馬無性ニカケル 其時盲目思ヒケルハ下々ハ川波ノ音スレバ谷底ニテモアラント手ヲハナサズモダクスルト口ヘ人來テ云ヤウ イカニ盲人其手ヲハナセバ大地ハ二三寸也ト云 盲人サテハト疑ノ手ヲハナシ大地ニ立チテ安堵セリ ワシリタル馬一タト人シハ我カトン欲瞋患ノ猛<sup>タケ</sup>キ心云ナリ 盲目トハ我等ガ愚痴妄想ヲ云也 松ノ枝ニ取付クトハ宿善開發スト云トモ善知識ニ遇<sup>ア</sup>ズ疑ヒノ離レザルユヘ家カデニ苦ムヲ云ナリ 人在リテ其手ヲ放セト云々ハ善知識ノ御勸化 其御影ニテサテハ転ムバカリト疑ノ手ヲ放シ他力信心ヲ得奉リ安堵ノ思ヒニ住スルナリ 疑ノ心在ル故 參り安フシテ人死シト申コトニテ候也ト仰セラレケレバ権守ハツト驚キイヨク疑ヒノ一ツヲ放シ安堵ノ思ヒトナリ難<sup>シ</sup>レ有ト申上候事

一 権守女房マカリ出テ申上ル 如来様ノ御慈悲ノ程疑ハ申サ子<sup>ネ</sup>ドモ染<sup>ク</sup>ト御喜ヒ申ス心底モ十ク文レ故 渡世ニ取りカ<sup>レ</sup>リ候 バイヨク散乱仕リ御慈悲トモ御恩トモ思ヒ出ス事ノナクナリ候 我カ心ニテモ余リ荒

々シク奉レ存候 此義御聽聞仕度ト申上ル 上人聞シ召レ仰ラレケルハ 男デ丈 在ルベキ事マシテ女ノ心一  
ハ猶有ルベキ事也 ヨリテ女ニ相應シタル鬘 在リ殊ク聽聞セヨ 背シ天竺ニ曾嘆ト云者在リ 此曾嘆日比  
仙術ヲ学ヒ仙人ニモヒトシケレドモ 母一人在リテ火 行クトアハズ 或ル時曾嘆母一イケルハ我レ山ニ  
入りテ仙人ニナラント思ドモ母一人<sup>イ</sup>在リテ其願ヒモ不レ滿 依テ母御一<sup>イ</sup>生衣食住ノ三ツク<sup>イ</sup>ラカラザルヤウノ  
法在リ 是レヲ母ニ与フ我レニ暇ヲ得サセ玉ランヤト哀バ母大イニ悦ヒ 衣食住ノ三ツニ不足无クンバナ  
ト力留メナンハヤク得サセヨト云 サラバ參ラセントテ四寸計リノ箱ヲ母一与フ母喜ヒ心口見ント衣食ヲ望メ  
バ心ノマニニ出ル 其時弥々悦ヒ言ヒケルハ子ヲ思フモ身ヲ思フノ道理今我レニ此寶ヲ讓ルカラハ一<sup>イ</sup>生安堵ニ  
住スベシサラバ火 行クベシトテ曾嘆ニ暇ヲ遣ス 其時曾嘆言ケルハ一<sup>イ</sup>生此箱ノ蓋ヲ取り玉フベカラス 母  
イカニモト言テ親子ノ別レヲナシテ曾嘆ヲ火 遣ス 久シク其箱ニテ樂ム事限リ无シ 或時母思ヒケルハ曾嘆  
此箱ノ蓋ヲ明ル事ナカレト言フタレドモ 中ハイカナル物在リヤト思ヒニワカニ寶ノ出ルコト不思議ナリ  
少シ計リ見バヤト思フ疑ノ心カラ一寸明ケタレバ中ヨリ少キ鶴一羽飛ヒ出テタリ 又タ元トノ如クニシテ夫  
ヨリ宝ヲ望メドモ一品モ出テズ 其時先兆ヲ歎キ言計リ无シ 段々貧窮ニナリ後ハ乞ガイ人トナリテ死セ  
リ 是レハ疑ノ一ツヲ以テ明ケ間敷キ箱ノ蓋ヲ明ケタル故ナリ 我等ガ往生モマツ其如ク 如来ノ佛智ヲ  
以テ助カル間敷キ凡夫ガ助カルカラハ是レ佛智不思議ノ御徳ナリ 曾嘆ガ母モ何ハ不レ知角ハ莫子ドモ一  
生樂ニ暮ラスコトヲ但此箱ノ不思議一任スルナラバ一<sup>イ</sup>生安堵ノ思ヒニ住スベシ 我等ガ往生モ佛智ノ不思議ニ  
任セ己ノガ心デ箱ノ蓋ヲ取ラズ何事モ往生ノ一大事 如来ニ打任せ一<sup>イ</sup>念歸當ノ上ハ御助ケニ安堵ノ思ヒ相續  
ス 是レヲ他カノ行人トハ申ス也 今ニ其元トガ染々ト御恩難<sup>レ</sup>在トモ得思又ト云 心口取モ直サズ疑ナリ  
既ニ妄念ノ雲霧ニテ月影モクモラセ玉バ月モ御休ミナサルヤウニ思ハル物ナリ 是レ妄念ノ疑ト云物  
ナリ 誠ト信領解ノ行者 染々ト喜レ又ニ付キ此心ヲ裏返シサテモくカハル天ニオドリ地ニオドリ喜フベキ  
事ヲ喜ヒ兼子タル私ヲ御助ケノ御法リゾト己ガ心ノ雲霧ニモトシヤクセズ大悲ニ立歸リ喜フニテコソ凡夫カ  
喜ヒトハ申スナリ 曾嘆ガ母事聽聞スルニ付キ必く疑フコトナカレト仰セラレタリ

一 權守申上ケ候 上人ノ御信心ト我等ガ信心トハ何ホドノカワリヤコザ候ト 上人聞レ召サレイカニ權守夫レ  
ハ悪敷キ心得ナリ 他カノ信心ハ何ト心得在ルヤ タトハ十兩ノ金子ヲ錦ノ袋ニ包ムト 又タ十兩ノ金子  
ヲ葉ヲ苞ニ包ミタルトハ何ニ違ヒ在ルヤト云々何ント心得ルヤ 大<sup>イ</sup>包<sup>イ</sup>ニ非ニ惡イ計リ中ナル十兩ノ金子ハ  
相違无シ錦ノ上包ニハ上人智者ノ信心ノ如ク葉苞ノ十兩ノ愚痴ノ我等 凡夫ノ信心ノ如ク是レ災禍前生ノアラ

ワレナラバ高下ハ在レトモ得奉ル御信心ハ我カ信心モ他カヨリ繪ラセ玉ハ權守ガ信心モ他カナリ 全ク大信心ノ入レ物ナレバ 智者愚者カワリ在レドモ浄土參リニハ大名下劣マデ同シ蓮臺ノ樂ミ 金剛堅固ノ信心ノ金ニテ參ラセテ下サルノ物ガ替テ在リテハ他カ一味ノ安心トハ申サヌゾヤ アラク御タノモシキ御信心御助ケズ有ルマイカト仰セラレタリ

一 權守御尋奉申上候 昨日今日マデモ必定地獄ノ主ト定リタル私ガ 上人様ノ御影ニテ御信心ヲ得奉リ極樂ヘ參ラセテ下サルト安堵ノ身ニナシ玉ル佛祖ノ御恩片時モ忘ルノ事ノ有間敷キニ愚力悔怠ニマカリ成候ハ荒々敷奉存候ト申上レハ被聞召 夫ハ凡夫ノ體ノ有様ナリ 此蓮如モ同シ事也 尔レドモ煩惱ハ凡夫ノ持分ナレバ起ル煩惱ニ手傳スル心在ルヤト仰セラレケレバ 權守申シ上ルハカナル氣ナレバゴソ如来ノ益々御苦勞ニ思召シ下サルト存シ心ヨコラシ身ヲツミ切ルヤウニ思ドモ又モヤ起ル煩惱ニゴザ候ト申シ上レハ其時上人仰セラレケルハ イカニ權守佛智不思議ノ手強キ物ト喜レヨ起ル煩惱ニ手ヲ出ス 權守ガ手ヲ引クトハ何事ゾヤ ヒク手ハ我カ手ナレドモ内ニ引カセテガ在ルカラヒクズ在ルマヒカ 生々世々知ラ又行ク末返ラ又昔 妄想顛倒ノ心ノ内ハ金剛堅固ノ御信心ノ名玉ヲヤドラセ玉フ シルシハヒクマクジキ手ヲ引クズ在マヒカ 是レ權守始トシテ凡夫ノ及ザル所也 是佛智不思議ニ依テ助ルマシキ權守ガ速力ニ涅槃常樂ノ身トナシ下サルノ驗シ也ト喜レヨト也

一 權守申上候 他カ御信心ノ御影故何事モ思セ下サルト思ヒナガラシカトニギリ取りタル様ハ思レ申サズ コレニヨリテドフゾツツカリト握り取りタル様フニ御勸化下サレ度ト申上ル 上人仰セケルハ心元トナキ事ハ念ヲ入レテ聽聞在ルベシ 是レモ喩エ以テ聽聞サスベシ惣メ生アル者我カ子ヲアワレム心皆同シカルベシアルガ中ニモ人閒ノ万物ノ長トシテ子ヲアワレム事畜類ニ勝レタリ ソモ出生ヨリ親ノ片時モ忘ルノ事ナシ子ノ方ニ思又事ニ心ヲ尽シ是レヲクレタヒキセタヒカザラセタヒト朝夕心ニタユル事ナシ 田地家々ニ至ルマデ此子何ツカ成人サセテ此身上不レ殘クレウト萬ツ物ノ世話皆ナ子ノ爲ト思尔レドモ子ノ方ハ是ラホシイアレラ貰フトハ思子ドモ親ノ方ハ子ニヤラフクト心身ヲヤツシ其子正シク成人シテ家財不レ殘讓リ我カ身ハ隱居シテクニ頭巾デ十徳着タル安心ノ様子ナレドモ子ヲ安ズル心ハ死又ル迄止マヌハ親ノ慈悲ト云物也 倦ルニ家財讓ル時ガ宿善開発ノ時至ルト云也 阿弥陀佛久遠却來我等ニクレタヒ殊キ男ニシテ諸人ニ營サシタイト思フ如ク殊キ信心者ニシテ諸々ノ佛ニモ營サセタヒト思召ス大悲ノ親様ノ御一念ノ道理入り滿テ下サレ親ノ名ヲツギ何助何右衛門ト名乗ル如ク 御一念ノ滿タレバゴソ 御信心ノ家トクヲ繼キ南無阿弥陀

佛ト名乗ルデハ在ルマイカ 是レ如來ノ親様ヨリ下サルノ家督ヲ相續スルト云物也 富以テ如來ノ衆生ヲ一人リ子ノ如ク思召シ一度南無阿弥陀ヲクレウ安堵安堵サセタヒトノ思召ニテ久遠廣却晝夜諸善ノ行ヲ作りタメサセ夫レヲ他カ一心ノ中納メ玉ヒ宿善開発ノ時ヲ待テ不レ殘讓リトク下サルノナリルレドモ子ハ親ニアマユル心ト同シ賞フタトモ思ハヌ 我等モ愚カナ凡夫ナレドモアナタヨリハ一念発起ノ所ニテ皆讓リ与下サレタリ 權守是ニテ信心家督ヲシタヅクハヤサシノ事ニアラズ 是レラサラヒ取りニスルト云タノナリ 寒ニモニ握リタルヨリモ猶タシカナル事デハ在ルマイカト仰セラレタリ

御尋申上候 御報謝ニ悔怠スルコトナカレトアレドモ忘レガチニマカリ成リ申候 是ニテハ往生如何ト奉申上候 上人被聞召仰ケルハイカニ權守夫ニテハ得奉ル信心トハ裏合セナル心底也 信心決定ノ權守ナレバ怠レト云テモ悔ルマジ 思イ内ニ在レハ色外ニ顯ルトハ其事也人ニ催促セラレテ申ス念佛ナラバロラ悦ト申テ何ソノ益カアラン 決定シテノ心ヲ顯レナラバ人ノ異見ヤ催促ニ及フベキ事ニ非ス 此心ヲ信心ニアテ喜ラベシ宿善開ケシ時ヲ一念ト云フ宿善開ケ御助ケニ作りシ嬉シヤ和ナヤト思ヒ立ツハフリカノモヤノヤウナ物 夫ヨリ月マシ日マシニ喜ブハフリツモリノ雪ニテ 是ヲ多念ト申スナリ 是レヲ誠ノ報謝ノ称名ト心得ベシ 御報謝ニ悔怠ト云フ疑ノ總ヲ解又故船ノユカザルニハ非スヤ イカデカ法海ノ信風ニ任セルトハイワレマジシカシ落葉柴ノ止リテ水ヨトムノ勢ヒツヨシト山沢ニゼンノ二木ノ葉散リカノリ沢ニナ責トナリ木ノ葉零シタドリゼンノニタマリヌレバ沢ニナ川トナル シカルニ溜リノスレバ是非一度ニヤブレ返テアタリノ蔡リアクタマデ拂 行クト云物ナリ 今モ一念ノ信心頂戴ノ上 妄想顛倒ノ落葉今日モバラノ明日モバラノ心ニヨドミ御報謝ノ称名モ悔怠トナレドモ如來大悲ノ雲今日モダクノ明日モダクノ晝夜不斷ノ衆生不便ノ御涙ノ大悲心溜リノスレバ其御念カノ水ニテ三毒ノ落葉ノ責一度ニヤブレ己レガ悔怠ヲヒ悔ミヤ口ノ此様ナ者ヲ御捨テノ无ヒ事ヨト返テ大悲ヲ責フトミヌ 今ノ先キマデ己ガ無沙汰ノ心ヲ悲ミシニ悦ノ心トナサレシハ是レ如來ノ御念カノ御成シ業サ也 アタリノ口リアクタトハ忘想顛倒ノ心也 御恩モ悦バズ御報謝ノ称名ニモ悔怠勝テニナレドモ 大悲ノ御念カノ入り滿テ下サルノ顯レ山沢ノ責ノ破ルノ如ク立カヘリクヒ悔ミ御懺悔申シ上ルハ是則御信心ノ御徒也 是レラ常懺悔ノ人ト仰セラレタリアラノ心安ノ御助ケヤト益ノ喜ヒシトナリ

御尋申上候 秋御存知ノ通り愚者ニ御座候故 御和讚正信偈御文章等御仕候テモ何ノ事ヤラ不分明ニテイヨク難ク有モ不奉存候ト申上候 上人被聞召イカニ權守夫ハ惡人正氣ノ御本願ヲ物デナシニスルト

云物也 兼テ聴聞ノ通り何レ知角不レ覺トモ愚痴ナリデ助ケテクリヤウトノ思召 惣ジテ在家無智ノ輩ハ俗談ニ也テ喜フベシ 文釈ノ堅キコトハ齒ノ無キ者一堅キ餅ヲ与ルヤウナ物 又久猫ニ小判ヲ与ルヤウナ物 猫ニ小判ト鱒ノ頭ヲ与ナバ何レニ目ヲカクベシヤ 小判猫ニ不相應ノ物ナレバ鱒ノ頭ニ心ヲカクベシ 今貴殿ガ文釈ニ心ヲカクルハ猫ニ小判ヲ与ル様ナ物 文盲相應ニシテ因縁ヤ杯<sup>等</sup>ゴソ貴殿一相應ト云物也 齒ノ无キ者ガ堅イ餅ニカジリツキ食スト云ドモ其味ヲ知ラヌ如ク 夫レトモニアナタノ大悲ガ智恵アル者ヲ助ルトアラバ不レ及ナガラ文釈ニ手モ掛クシ 如來ノ御誓智恵在ル者ハ御カクマイナク愚痴オロナ力者ヲ御目掛アソバヌヘ是レヲ大悲ト云也 必ク利根才智テ衰トノ教<sup>等</sup>ハナシ 権守力愚力ナガラ御助ケトアケバ手振テ御助ケ喜ルハ阿弥陀如來計リ也ト仰セラケレバ 権守我心ノ重荷ヲオロシ喜ヒシト也 又タ蓮如上人仰ラレケルハ浄土ヲ口<sup>ッ</sup>ニシテ娑婆ヲ心ニスルト云事在リ 夫レライカント云ニ恩愛別離ノ事ヲ思フハ涙連々トシテ出テヤマズ サレドモ如來ノ大悲ヲ聞極樂無障ノ常樂ヲ思フハ寛々トシテ心動リ事ナシトテ世ノ哀レ我身ヲキコトナシトハ心ライタメ涙ムセブ事ナレドモ阿弥陀如來ノ大悲ヲ聞キイクタビカ聴聞スレドモウカクトシテ心ノ働ク事モナク哀レテ无<sup>レ</sup>トニ涙ヲコボシ難<sup>キ</sup>有<sup>レ</sup>トニコホサズ 是レハ皆煩惱ニスラルト云物也 寒ニ計リモ无キ我カ愚力ナ心 恐口シキ邪見持分ノ業ナルベシ ワツカニ五十六年ノ此世界持テモ不<sup>レ</sup>行力連レラレモセ又妻子ニ愛着ヲ殘シ後生ノ事ハ風呂榎片付置キ妄想ノ諸道具ヲ取り出シ在ルガ上ニモ未來ノ重荷ヲ積重子<sup>ね</sup> 是レハ富士ノ山ニ耳カキヲ取りカ物ニスルト云物也 今マ无常ノ嵐ニ吹キ立テラレ己レカ作り座シ無間地獄ニ趣キ阿ホ<sup>等</sup>フラセツト云 鬼ニ手ヲ引レ冥火ニ焼レ鉄<sup>ホ</sup>ノ鋒ニテ打ヒシガレ其時ハ妻子トテモ苦シミノ用ハ立タズ ホシイオシイトカセギタメタル金銀ニ目ヲ掛ル鬼モナシ スル<sup>レ</sup>ドノ及モ己ガ心ヨリ打出シタル名劔ナレバ誰レヲウラムベキ様モナシ牛頭馬頭ノ毛ニ取ラルトモ皆己ガ心ノ鬼ナレバ身ニ添ヒ心ニ添ヒ苦ミ冥火ニガサルトヨリ外ノ事无ク苦ミニ隙マナキヲ無間ノ者ト云也 是レヲ寛々トシテ心ノ動クコトナシトハ 申スナリト仰セラレタリ 権守大キニ驚キ今マハ其ノ危キ私ノ無間ノ苦ヲノガレサセテ下サルトモ皆上人様ノ御影ナリトヒレ伏シ喜ヒシトナリ

一

奉申上候 朝夕大悲ノ理リ聴聞仕候所ニ難<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>心ナクテ此道理デモ在<sup>レ</sup>フカ 又タ此理屈デモ在<sup>レ</sup>口カトア<sup>レ</sup>ナタノ大悲ニ理屈道理ヲ付ケ心ニクツタク仕ル事ヤトモスレバ御座候 是レハ御慈悲ノ事喜フトハ申間敷ト申シ上ケタレバ 上人被<sup>レ</sup>聞召ニ大ニ御呵リナサレイカニ権守昨日ヤ今日蓮如ガ弟子ニナリ早ヤ我ヲ云ヤ人家ノ相ヲアラワス也 愚痴ナガラデ御助ケニアツカル事ヲ忘レケルカアラク勿躰ナキ心得力ナ 是ニ付譬ニテ

聞スベシ殊々聽聞シテ御恩ヲ悦フベシ阿弥陀如來ノ恩慈悲<sup>六</sup>作り松ノ如シ 夫ハイカント云二十方衆生ノ御誓ナレドモ善人智者ノスオナル者ヨリ惡業煩惱<sup>一</sup>マガリク子リノ在ル惡人ホドムゴラシト思召ス 寔ニ諸佛一勝レタル御慈悲ナリ 作り松モ木ブリ枝ブリノスナオナルヲ愛翫セズ元ト木モイジクレアシク枝ノ曲リク子リノ在ル 松ヲヨキ松ト云如ク如來様ノ御心ニモ貴殿ガヤウナル如來様ノ思召<sup>一</sup>モシタガワズシテ表ト云ハ裏ヘ走ルヤウナル心ノ元木モイジクレアシク貧欲シンイノ枝ノ曲リク子リタル者ホド如來ハ不便<sup>一</sup>思召ガ故<sup>オツカケオヒツメ</sup>追掛追詰御催促ニ御心モ休マラセラルノ間モ无ク今壇上ニ拜マレ玉ヲ 祖師聖人トナラセラレ御足<sup>一</sup>アケノ血シホヲナガサセラレ權守計リハト思召ス 御念力入滿テ下サレ今蓮如ガ弟子トナリテ嬉シヤト喜フ心ニナラシナリ 全ク貴殿ガ愚者<sup>一</sup>御座候所愚ナル者程助ケタヒト思召スト在レバ私ニ相應<sup>一</sup>御慈悲ト只大悲ニスガリマヒラセル心ゴソ何<sup>一</sup>不<sup>レ</sup>知角<sup>一</sup>不<sup>レ</sup>覺トモト云思召ニ相應スルト云物也 我ガ氣ノ方ヲ振り捨テ何事ニヨラズ皆他力ヅクメト喜フコソ難<sup>レ</sup>有 他力ヅクメト云トハ作り松ノ思召<sup>一</sup>立歸リ喜フシト仰セラレタリ

一

又タ御尋奉申上候 御報謝ノ称名ナンド喜ヒ候テモ染々ト喜<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>申候 是ニテモ御報謝ニナリ候ヤト申シ上ル 上人被<sup>ニ</sup>間召<sup>一</sup>氣之毒サフノ御顔ブリニテ仰セラケルハ イカニ權守日比ノ聽聞何ント心得アルゾヤ

今貴殿力尋ル所<sup>一</sup>如來ノ大悲ヲ片付物ニシテ御報謝ニ念ヲ入ルノ心今マニ領解セヌト是<sup>一</sup>タリ 此度浄土<sup>一</sup>參リハ一念ノ立チ処<sup>一</sup>ニテ貴殿ガ往生如來ノ方ニ御定メ下サレタラ何<sup>一</sup>ウカ<sup>一</sup>トシテ御報謝ヲ難<sup>レ</sup>有<sup>一</sup>アリガタフナヒノ杯ト屈タクスルゾヤ 御報謝ノ称名ト申スハ往生ノ場所<sup>一</sup>拘<sup>レ</sup>所<sup>一</sup>非ズ 往生一念<sup>一</sup>所<sup>一</sup>佛ノ方ニ御定メ下サレタレバ扱<sup>レ</sup>テモ喜シヤ<sup>一</sup>ト思フ心ノ内ニ在<sup>レ</sup>ハ忝ケナイト口<sup>一</sup>ニ称名ノ顯ル<sup>一</sup>ガ報謝ノ称名トハ申ナリ 其ノ心得モナク報謝ノ称名ニ高ブリ念ヲ入<sup>レ</sup>難<sup>レ</sup>有<sup>一</sup>ナヒガ氣之毒チヤト思フガ夫<sup>一</sup>自カト云モノナリ 難<sup>レ</sup>有<sup>一</sup>アルナヒニ拘<sup>レ</sup>ラズ如來ノ御助<sup>一</sup>エアツカリ參ル間敷キ私ヲ參ラセテ下サルノ思召<sup>一</sup>其ノ難<sup>レ</sup>有<sup>一</sup>サニオノツカラ口<sup>一</sup>称名ナレバ御報謝ニナルランハアナタノ御取扱<sup>一</sup>ゴソアレ貴殿ガ心ゼ<sup>一</sup>リハ入ラヌ事也 人々御報謝ニナサリヤウガナサレマイカ只貴殿御助<sup>一</sup>アツカリシ事ノ嬉シヤト心底ニ思フ計リ 夫レカ口<sup>一</sup>ニ南無阿弥陀佛ト浮マセラルノ迄テガ他力ヅクメノ大悲ト云物也 貴殿ガ心ゼ<sup>一</sup>リデアヤマチヲスルナト仰セラレタリ 亦タ我レモ信心人モ決定ト互ヒニ皆口喜ヒ身喜ヒ浮世喜ヒニテ真実ニアナタノ御己<sup>一</sup>證<sup>一</sup>叶フタル人無し 唯向<sup>一</sup>計リ手ヲ延シテ近キ手元トノ信心モトラズシテ領解<sup>一</sup>上スベリノ同行多シ 故<sup>一</sup>他力大悲ノ理ヲヨク聽聞セヨ今ニモ極樂參ルト云 覺悟<sup>一</sup>全ク貴殿ノ心ニテハナシ 人々バクラガリノ家<sup>一</sup>一ツノマドヲ明ケタレバアカルウナル<sup>一</sup>无ヒカ 貴殿ガ无明煩惱ノ心ノクラガリノ家<sup>一</sup>一念歸命ノマドヲ一ツ明ケタ

レバ忽チ明ニ成ル 是レヲ宿善開発領解ノ場所ト云ナリ アケタハ我カ手ナレド外ニ明リノ在ル故ナルベシ マ  
ドヲ明フト氣ザス所ガ宿善開発外ニアカリナクンバナドカマドヲ明フト思フ心アルマジ外トヨリ御助ケノ明リ  
サスユヘ忘念忘執ノクラガリノ家 他カノマドヲ明ケタレバ己ノカアヤマリノ蔡リ芥マデミナ昇エルニ在ルマ  
イカ無宿善ノ其時罪<sup>破れ</sup>口悪トモ思ハヌニ善知識ノ御勸化ノ御影ニテ他カノ信心ヲ得奉レハ我身極重ノ悪人ト  
知ラルハ向フ物ノヲ我カ物ニシテ下サルノ也 是レヲ他カト申ス也 マドノ明リモマツ其如ク外ノ明リヲ  
我物ニシテ家ノ内ノクラガリヲ明<sup>ワ</sup>キマヘル今モ胸ノ内ノクラガリヲ明白セン爲他カノマドヲ明ケタレハ在ル  
マイカ 是ニテイヨク他カト云事ヲ喜フベシト仰セラレタリ 又タ好<sup>ム</sup>随フテ弥ヤ増シト云事アリ 依  
之後生好<sup>キ</sup>ナリ玉フトモ法義好<sup>キ</sup>ハナリ玉フベカラスト云事アリ 夫レヲイカント云ニ法義好<sup>キ</sup>ナレバ經  
論釈ニオノズカラ心ヲカケ沙汰者ナル物ナリ沙汰者ヲ土橋同行ト云テ人ヲ渡シ我レハ落ルト云事也 此度ノ  
後生才智利根デ參ル極樂ニテハナヒ程ニ智恵在ル者 愚者ニ成リ歸リテ只タ如來ノ大悲ヲ喜フコソ佛智不思  
義ノ次第ト云也 磁石 鉄ヲ吸<sup>ス</sup>クハ蔡リヲ好ム 是レハ磁石又タ琥珀ニ備<sup>ソナ</sup>リシ徳ナレバ不思議ノ業ト云  
阿弥陀如來 悪人女人ヲ御助ケナサルニ徳備ラセ玉ハ是ヲ佛智不思議ト云 我々カ思案モ工夫モ不<sup>ハ</sup>レ及  
所也 何事モ我々カ様ナル愚者 何モシラズナガラニテ 祖師聖人ノ御跡ヲ慕ヒマヒラスル心ニテ喜クベシ  
故ニ智者トテ喜シキコトナシ愚者トテ卑下スル所ニアラズ口我カ氣風ヲクワズ大悲ノ御袖ニヒトスガ  
リマヒラスル思ヒニナリテ御タノモシキ心ニテ喜フベシト仰セラレタリ

一 奉申上候立 歸リテ喜<sup>ベ</sup>トノ朝タノ御勤化ニ御座候所立歸リト申義合点不<sup>レ</sup>參候間御尋申上候 上人仰セ  
ケルハイカニ權守ソレハ信心ノ疎キ故サヤウナルコトモ合点カ又也 是レモ噓ニテ聽聞セヨ玩ニ我等スベル  
泥道ヲ行ク如クイカント云ニ泥道ヲ行クニスベリコロビカラダヲバ泥<sup>ロ</sup>マブリニシテ取り処<sup>ロ</sup>モ无クヨゴレハテ  
タル時又タ起キテ走<sup>ハ</sup>シル時ハ其<sup>コ</sup>ロ<sup>ン</sup>ダ<sup>ニ</sup>泥ニ手ヲツカ 起子<sup>ネ</sup>バナラヌ 今我々ノ在リ様モマツ其如ク明テモ暮  
レテモ煩惱忘想ノマツワリ貧欲<sup>シ</sup>瞋<sup>イ</sup>心モ穢<sup>レ</sup>テハ取所モ无キ我カ身ノ上 其ノ忘念忘執ノ穢<sup>レ</sup>ニモ御貧着ナ  
サラズ 是レハ凡夫悪人女人ノ常ナレバ夫レガ往生ノ障リニモナラズ 一念ノ信心<sup>ダ</sup>ニマコトナラバ撰取ノ光  
明ノ中一起キ伏シサセズンバ我レハ阿弥陀仏ト云 正覺取ラジト我々ガ爲ニ御身ヲ焦<sup>コガ</sup>シ玉フ 其時<sup>ハ</sup>我等カ  
爲ニ狂乱物乱ヒトモナラセラレ<sup>ル</sup>所ヲ追掛ケセラレ五劫ノ先キカラ雨山ノ御苦勞 皆我々カ爲也 其影<sup>カケ</sup>  
テ今參ルマジキ我等ガ御助ケニアズカラント落付ク心底ニナルマデガ皆大悲佛智ノ顯レ也 是ニヨリテ加樣ニ  
三毒ノ游<sup>ト</sup>泥ニ穢<sup>レ</sup>ハテタル我々レヲイカナル如來ノ御慈悲マシマスヤラント コロンダ泥ニ手ヲツカ<sup>ハ</sup>起ル如ク

ヤレ／＼大悲ヤンゴトナク御捨<sup>オミス</sup>テノ无キ又たく有ルベキトニテモナシト コロンダ煩惱一手ヲツカ我カ身我カ心ノ穢レハテタル有リサマ 廣大ノ御恩サ<sup>カ</sup>忘レシ事ヨトクヒ悲シミ御慈悲立歸リ喜フコソ我タレガ喜レト申ス也 必／＼我心ノ計レ有ル事ナカレ ヤ<sup>カ</sup>モスレバ我レニクツタクスル事墨ヲ洗フ如ク 洗ハ洗フホド水ヲ濁ス 是レズ／＼デハト己カ心ヲカスバ他カノ法水ヲ濁ゴスト云物也 此心ヨトク／＼聽聞スルナラバ是レヲ立歸リテ喜フトハ申ス也ト仰ラレタリ

一 口憇奉申上候 去ル人申事ハ不信心ノ人ハ喜ヒノ纏ニタルミ有リト申候 是レハ何ニ事ニ申ヤト申上レハ 上人仰セラレケルハ狭キ事ガ耳ニ止リ候 夫レト申スモ信心ノ身ノ上トナリイヨ／＼大悲ノ御影ヲ喜フベシ 如來ノ思召ト我々が心トハチヲコチヲ違ヒ在リ 如來様ノ思召只惡世ニナガラスアランヨリハ 片時モ早く淨夫引取り度キ思召ナレドモ我々ハ煩惱一染レ馴<sup>ナ</sup>深キ故 死ル事ヲイヤ／＼ノ心ブリ 淨土ノ往生ヲ早フトモ思ズ只妻子一心ヲ殘シ金錢我カ身ヲ責ムルコソ足ラミトモ思ズ 一日／＼命ノツゞマルト云事ヲモ思ズ只手業サノ損德ニ計リ心ヲ奪レ人ハ死又レドモ我死ナヌヤウニ思ヒ 夫故後生トモ如來様トモ不<sup>ニ</sup>思ヒ寄ラ哀レ浮世ハ不定トモ思ヌ又ユヘ命ノ纏長フシテ如來様ニ助ケラル身ヲ持テ居乍ラ如來様トモ思ハ又也 寒ニ定メナキ我カ身代ト思フナドカ喜フ纏ニタルミノ在リヤウナシ 是レ噺テ聞スベシ 近キ所ニ纏結ヒツケテ兩手ニテ引クニタルマス也又タ遠キ所ニ纏結ヒツケニツ指ニテ大力ニテ引クトモ遠キ故タルム 今我々カ心モマツ其如ク不定ノ露命ナレバ今日／＼死ル事ヲ近フ思フナラバ纏ニタルミノ有フヤウナシ 又タ人ハ死子トモ我レハ死又様ニ思フガ故ニ喜フ纏ニタルミアル是レ己ノカ心ヲアツキ故也 浮世ノ事ハ寶トモ在レハ偽リモアレドモ死ル事計リハ一ツトシテウソ偽リナキト云事ヲシラヌハ又我身知ラズノ正躰ナシト云モノナリト仰セラレタリ 權守又タ御伺申上候 諸佛菩薩皆如來ノ化身ト仰セラレ候 佛法ノ内輪<sup>ウチハ</sup>ナレバ有リ内神達マデ如來ノ分身ト申義タシカニ正跡有リヤト申シ上ル 上人被聞召先ツ八幡大菩薩ノ御哥一<sup>ウチハ</sup>我ガ名ヲ今マニ顯シテ南無阿弥陀佛ト云フゾ 嬉シキトアレバ八幡宮モ昔南無阿弥陀佛ニテマシ／＼タリト具タリ 是レ一ツノ正跡也 又タ日本神々ニ鳥居ノナキ宮<sup>ウチハ</sup>无シ鳥居ノ文字ハ鳥一居ルト書タル文字ナリ 神々ニ問テ云フ アナタノ御座所ハ何国ニテ御座候ヤト申シ上レバ 我鳥一居ル者也ト仰セラル 十二ノエトヲ算レハ鳥ノ方角ハ正シク西ニ當リ 正シク西ニハ阿弥陀如來ノ御国極樂淨土也 然レハ神明<sup>ウチハ</sup>皆淨土ヨリ此夫來ラセラレタ如來ノ御化身ト具タリ カリニ神ト顯レ衆生ニ結縁ヲシ玉ヒ一度極樂參ラセ度キ思召ノ看板ニ神前一鳥居ヲ立テ是レヲ見ルニ付テモ淨土ヲ願ヒ西方來レトノ思召ナレバ神社ヲ怪シムベカラズト仰セラレタリ ケ様申候

トテ往生ノ爲ハ余ノ佛神一祈ルコトナカレ往生 如來一任セ奉レバ其人ヲ神々ハ守ラセ玉フト云 思召是ニテ狭ク々喜フベシ 如來一歸命シ奉レハ諸神諸菩薩其人ヲ守護シ玉ヒ夜ル昼ル守ラセ玉フト申也 此道理ニテヨロコブベシト吳く仰セラレタリ

一 御伺奉申上候 如來ノ御念力ニテ此度極樂 參ラセテ下サルノ事廣大ノ御恩トハ存候 ドモ廣大ト思ハレ御恩ハ喜レ申等ニ候処ニウトく敷マカリ成り候 全ク如來ノ御手疑 不レ仕候 ドモシミくト存不レ申故御報謝ノ称名モウトく敷喜バレ不レ申 加様ハ有間敷トハ思ヒナガラ喜レ不レ申ト申シ上レハ 上人仰ラレケルハ別テ狭キ尋也 蓮如力身一取リテモ恥敷キ尋也 是レ凡夫ノ身ノ夫ノ成シ業也凡夫ノ身ハ衾瞋痴ノ三毒ト云テ我ホガ身ニ生レ付タル悪性在リ 此毒ヨリ作り出ス処ノ根元忘語綺語兩テ口ハ寺ト作り出セル悪業煩惱ガ八万四千ノ枝葉トナリ其枝ニヨリホシヒオシヒイトシカワヒノ色欲レンボノ芽ヲ出シ惡業煩惱ノ風吹ケバ邪見放逸ノ枝々ガユルギワタリ チルヤ木ノ葉ノ裏表 今日モチラく明日モバラくチリ乱ルハ皆凡夫我ホガ有様ナリ 夫故ニ是レズイカバト疑ノ起ル皆己ガ心ノ業ナルヘシ 依テ之如來ノ御恩モ染々ト喜レヌト思フベシ 疑 往生ノ障リト思フモ疑ヨリ起ル疑也 是レラタト人テ聞スベシ 或ル親ガ兄弟ノ子ニ名香ヲ与フ 尔ルニ兄ノ貰フタ香 常々匂ヒ芬々タリ弟カ香 匂ヒ少シ 弟思ヒケルハ親我レニ惡敷香ヲ与玉フト恨ラム 兄弟トモニ同シ香ナレドモ弟カ香 包物アツケレバ外 匂ヒモレズ 兄ガ香 包物ウスケレハ外 匂芬々タリ 是レ親ノ方ニ隔ナケレドモ包物ノ厚薄ニテ違フヤフニ思フ也 今如來ノ御慈悲モ其如ク衆生ハ皆平等ニテ御隔 无ケレトモ隔テノ有ルヤウニ疑ハ皆己カ煩惱ノ包物ノ厚薄ニテ至テ厚キ故喜フ匂ヒ外モレヌ也 故ニ我レニハ信心ウスキカト疑敷ク思フハ己カ心ヨリ己カ心ヲ疑フト云物也 徒々聽聞シテ兄弟トモニ包物ヲホドキ見レハ同シ香也 喜フト不レ喜トハ煩惱ノ業ナルヘシ 如來ノ大悲疑マジキ事ヲ疑フハ 凡夫ノ性得誠也 此疑シキ心ヲヒルガシテ御慈悲ニ立歸リ喜フト 又タ煩惱ノマニ夫ニ執着スルトハ 地獄ト極樂トノニツト知ラルベシ 聞其名号称喜シテ聽聞ノ表ヲカシ殊々喜フベシト仰セラレタリ 我レモ人モ淨土眞宗トハ云トモ他力信心速カナラズハイカシ 其故淨土眞宗ハ他カト云看板ヲ出サセラレ雜行ノウルシニテモ塗ラズ 雜修ノ金銀ヲモ不レ用自力我心ノ憎モ様モナリ 其儘ノ木地ヲ以テ内ニ信心有リト云看板也 尤八宗九宗何レモ成仏ナラザル法ナシ 何レモ釈尊ノ教 是レ最勝ノ法ナレハ 如説ニ行スレバ巨益アラズト云事 无シ尔レトモ五常ノ法ヲ守リ戒行戒律善根功能ノ物種ヲモ失ヒヌレバ 何レヲ力取ント云 諸宗ノ教ナリ 尔ルニ淨土眞宗ハ下根最劣ニシテ善根 不レ持 不根下劣ナレバ自力修行ト云ル金銀 タクワズ法ニ

カツヘズ死也 諸佛ノ門口 袖乞ヒスレバ煩惱ノ穢レ果タルキタナキ悪人ジヤ女人ヂヤト追出サレ 真言秘  
蜜ノ隣 行ケバ何ニ宗ノ元ト手カ在カト嫌ヒ出サレ 東家西家ノ向ト行ケバ千都万都ノ修行有ルカト嫌ヒ出  
サレ 実ニ最劣ノ我等ニテ法ニカツエ死ニナルベキナレドモ 浄土真宗ハ他カト言ル看板ノ通りニ他カト信心ト言  
ヘル木穀ニテ他家ノ有難サハ凡夫悪性ノ穢レノマヽナリフリニハ不レ構善根功能ノ金銀モ不入□□如法性ノ秘  
蜜ノ元手モ入ラズ邪見放逸ノ口テ□□助ケ来ト高聲ニ申サ子バナラヌト云事モ在ラズ 御説ノ通り諸  
仏ニ捨ラレ諸宗ニ嫌レ 立寄ル方ト入 入苦クノ無間地獄ノメリ死ニ其上ニ法味ノアヂアフト云事モ万劫ニ  
モ思ヒタタル私ライカナル他カト云ル御力ニテ多クノ衆生普ク助ケテクレント思召ス御一念滿テサセ玉ヒ  
阿弥陀ト云正覺ノ見世ヲカザリヤアノ衆生安堵セヨ 法ニカツエル覺モナシ善根功能ノ金銀モイラズ宿  
善ノ目ヲ開キ他カノ家 來リナバ男子デモ女人デモ極樂參リカツメイハ及セマヒトノ思召浄土ニ在ルニモア  
ラレズシテ祖師聖人ト顯レテ金剛堅固ノ元メトナラセラレ令諸衆生我々ニ只取リガチノ信心ヲ我物イラ  
ズ賞フコソ是レヲ他カト申ス也ト此ゴトワリヲ聽聞シテ浄土真宗ノ他カト信心ト云事ヨクノ心得ベシト仰セラ  
レタリ

一 御尋奉申上候 他宗ノ佛像ヲ見ク立像モアリ座像モ御座候処ニ我宗門ノ如來様 何国ノ寺ニテモ立像計リニ  
テ御座候義承リ度候ト申シ上ル 上人被聞召大ニ權守ヲ 才譽メナサレ イカニ權守其古ノ神道ナラバ  
カリナルコトモ 心付キノ在ルマジキ所ニ今蓮如カ弟子トナリ信心ノ身ノ上トナリシ 故アナタノ御姿タニ心  
付クコト全ク貴殿ガ心デナシ 先ツ御家ノ如來ノ御姿ニ立像即行ノ御姿也 其立像即行ノ御姿トハ善導大師  
ノ定善義ニ曰 此レ如來別シメ明スレ有るトヲニ蜜意ニ 但シ以ミク 娑婆 苦海ニ雜惡同居シメハ苦相ヒ焼ク  
動モスレ 成シメニ違反一詐リ親ニテ含ムレ笑ヲ六賊常随テ三惡ノ火坑臨々トシメ 欲スレ入ント若シ奉テレ足ヲ以テ  
不ハレ救レ迷ヲ業繫ク之罕何ニ由テカ得シレ勉ニヌカレテ爲ニ此義ノ一故ニ立チ玉ヲ撮テ即チ行ク不ルレ及ニ端坐  
シメ赴クニ一レ機ニ也 ソレライカント申ニ此度アナタノ御念カノ顯レニテ信心ヲ得奏キ身分ト云ヒナガラ煩  
惱成就ノ凡夫ナレバ煩惱ニタブラカサレ 又タ珍ラシカラズ 迷ヒテ古里ニ立チ帰ル種掇テ御説ナサレ  
三途ノ河底 今ヤ落ントスルトキ早ヤ沈ントスル 凡夫カ姿ヲ御説セラレ極条ノ花ノ産テ何ニモ御安坐游バ  
ス御心モナク アラクノ危キ凡夫ノ有様カナト思召地獄ノ方ハヤラジトテ立チニ立チカヽラセラレ 我々  
ヲヒツ提ケサセラレ浄土 送り届ケントアナタニモ御安堵ニ思召サヌ故立チカヽリヨリソヒ玉ヒテ御待チナサ  
ルノ大悲ノ御心故御休ミナサルニ隙モナク是レヲ立像即行ノ御姿ト申スナリ 立像即行トハ立テ提ケ行クト

イフ文字 此大悲ノ御心ヲ思ヒ見ルニ皆我々ガ立ラセマスルト云物也 夫レノミナラズ三寸前ノ友ヨリソワセ玉フテ御タテアラルトコソマタク御イタワシキ御姿也 是レヲイカント云ニ御領解申ス身ノ上トナリケレドモ妻子渡世ニ取掛リ貧欲瞋恚ノ心散乱シテヤトモスレバ三途ノ友近付クヲ御説アソバサレ三途ノ友ハヤラジトト思召ノ顯レ前ノ友三寸カタヨラセ玉フ此御姿マデ皆我々レガ爲ナラズト云コトナシ 是レ諸佛ニ越勝レサセ玉ル大悲ノ故前ニ三寸寄リソヒ玉ヒ立テ通シニ立タセラルトモ皆衆生ノ爲ナラズト云フコトナシ 兎角凡夫ガ身信心決定シテモヤトモスレバ三惡道ノ方ニ近付ク種拵 夫婦レンボノ思イヲ初トシテ金銀有ルガ上ニモ積重子度キ心火皆己ガ罪トモ思ハズ如來ノ大悲口ハ云ド心ニ不レ思不レ思不法悔怠ナリ行クナリ 寒ニ御慈悲ヲ喜フトハ人ニ催促セラルト事ニ非ス ヨクノ思ハ令ニ地獄 落ルト承レハ幾評ノ責ニ逢イ如來様血ノ涙ヲ流サセラルト在ル 亦タ淨土參レハ如來手タキシテ御喜ヒト在ル 悦ヲシテ惡人ト云札ノ付クノト淨土參レハ諸佛ニモ善男子善女人ト御譽メニ預ルノトハ實ニ浮世ノ挽徳トハ事替リ無量ノ樂ミ苦ミノニツナレバゴノ理リヲヨクノ聽聞シ心得ノ在ルキ事ゾト仰セラレタリ

一 乍恐御尋奉申上候 去ル同行殊之外ノ御喜ヒルニ夫レニ大ニ相違シテ皆人惡ルイ人ト云ルト在リソノ者イカニ御座候ヤト申上ル 上人仰ラレ候イカニ權守夫レハ惡キ心得ナリ 此蓮如丈參ラセテ下サルト其一人ナンドハ悩タレカ成ル往生ト思レヨ 左様ノ者ガ在レバゴソ惡人正氣ノ本願ヲ立テサセラレタリ 左様人カ無ケレバ誰當ニシテ御誓ヒナサリヤウ様モ無シ惣メ同行タル身ノ上人々ノ善惡ヲ云ベカラズ 我レモ凡夫人モ凡夫 凡夫ハ善人ト云者一人モ無キ物ナリ 故ニ惡人ト云ルトヨリテ如來惡人正氣ノ御願ヲ御立テ下サレ 惡人ヲサヌ取リニ御助ナサレントノ大悲ナリ 貴殿モ惡人デ在リナガラ人ノ善惡ヲ云ハ是レ向フ見エレドモ手前見エヌト云物ナリ 鼻欠ケ猿ルノ鼻ノ在ル猿ルヲ笑フト云ハ貴殿ガ事ナリ 只信心ノ身ノ上如來様ノ御慈悲計リハ誠トト信スベキナリ 我カ身ノ極重ノ惡人ヨリ外ニ世上ニ惡キ人無シ 世上ニ惡キ者私一人ト思ヒ極メ 此故ニ五劫ノ暁天ヨリ今日ニ至ルマデ如來御苦勞ニ思召シ今壇上ニ拜レ玉フ御姿マデ立テ掛リ寄り添ヒ 兎角極樂連レテ歸ラヌ間々安堵セヌト思召ノアラワレ 立像則行ノ御姿ナラセラレ此姿ヲ見ルニ付ケテモ イヨク大悲ヲ哀トノ御慈悲ナレバ一分ノ信心コソハ大切ナレ必ク人ノ信心ガ我カ物ニモナラズ我カ信心ガ人ノ善惡ニ目ヲ付ル事ナカレ 只我レ一人ノ爲ノ御苦勞ナリト喜ナバ 此界ニ滞留ノ内ニテモ苦モナク目出トフ淨土參リスル事ゾト喜フベシト也 又タ乍恐御尋申上候 往生ト申文字往イテ生ルト申ス文字ヨシ承リ候 極樂ハ何トシテ生ルト答ニ御

座候ヤト 上人被ニ聞召一イカニ權守昨日ヤ今日蓮如カ弟子ニナリ早ヤ文字等扨ニ心ヲ掛ル事 童ニ小刀ヲ持  
タセル如ク危キ物ナリ 兼々聞スル通り貴殿ガ様ナル患者何事モ知ラズナガラニ只如來ノ大悲ヲ喜フガ專一  
ノ事ナリ 文釈ニ達シ才智ナリト云トモ御恩モ不ルレ悦ニ猫ニ爪ノ無キヤウナ物ナリ 信心ノ鼠ニ手ヲ掛ルト  
云トモ往行ノ兩手ニ爪ノ無キ故取リハズベシ 是レ危キ小刀領解ト云物ナリ 只貴殿ガヤウナル患者如  
來ノ御助ケニテ淨太參ラセテ下サルノ事ヲ心底ニ思ヒ定メテ有難サニ御恩ヲ片時モ忘レヌヤウニ喜ゴソ貴殿  
ガ領解ト云物也 物シリ顔ノ同行ノ御恩モ喜ヌハ猫ニ爪ノ無キ様ナ物 往生ノ二字モ貴殿カ心デ極樂往  
生スルニアラス 如來様ノ御慈悲ニテ生レサセテ下サルト在ルヲ往生ト云ナリ 是モ喩ニテ聞クン大河ヲ  
隔テ其向フニ我子在リ 此ノ方ノ親ヲ包ヒ川バタ細キ道ナリ ヤノモスレバ彼ノ大河ノ落クトスル 処此  
方ノ崖ニ親在リ我カ子ノ危キ躰ヲ見テアルニモアラズ 船ヲ求メテ向ノ岸付ケ此船ニ乘レヨト云トモ淤泥ニ  
手足ヲ痛メ己レト船ニ乘ルベキカラナシ 寒サコトト既ニ大河ノ落クトスル処 親其子ヲ抱テ船ニ乘セテ彼岸ニ  
歸リ親子安堵ノ思ヒニナル 其大河ニ喩シハ生死ノ大河 親ニ喩シハ弥陀如來 子ニ喩シハ我々ナリ 惡  
心ノ寒キ貧欲ノ氷ニツメラレ善根ノ手ハスキミ 功能ノクロク足 惡業ノ淤泥ニヨゴレ願行觀念ニ氣不レ及 我  
レト弘誓ノ船ニ乘ルベキカラモナキ我々ヲ阿弥陀如來ノ親様ガ他力信心ト云船ヲ南無阿弥陀佛ト御成就ナサ  
レ 今ニ此船ニ乘ラズンバ生死ノ大河ヲ誰力渡サント思召ス大悲ノ御手ニイダキ乗セラレ 今如來様ニ助ケ  
ラレ 極樂 參ラセテ下サルトニ定リヌレバ如來様モ御安堵アソバス 其ノ御心ロヲ往生ノ二字ノ心ト知ベシ  
ト御知ラセ下セレケレバ イヨク愚痴ニ歸リ喜フベシト仰セラレタリ

一 又タ御尋奉申上候 如來様 御立花ノ善トニ 他宗ニ事替リ 生花ヲ立テ アママ添ノヒカノ前置杯  
ト色々分リ候義 是レハイカナル訳ケ御座候ヤト申シ上ル 上人被レ仰ケレハ イカニ權守花ヲ御煎立ル事  
今マニ其心得ナキヤ 惣メ同行ノ心得 生花ヲ立テ、如來様 御見セ申ス心底ニテ指上ルナリ 全ク左様ニテ  
ハ無レ之 佛ノ御身 百福莊嚴ノ御姿タ 夫ニ随ヒ極樂ノ莊嚴 欄楯ノ植木ニ無量ノ枝葉ヨリハ無量ノ光明所  
ハク々ノ鳥ノ聲 諸佛管弦ノ調子ニ合セリ カハル無量ノ御樂ノ如來様何ソ不定ノ娑婆界ノ花ニ御目ヲ付ラル  
ト云ニテモ無シ 是レ淺間敷凡夫我々ノ思ヒブリト云物ナリ皆人ノ心得 凡夫ノ方ヨリアナタハ指上ケ御  
悦極ハスノ心也 是レヲ取違ノ心得ト申スナリ 皆アナタカラ我々ニ御見セ下サルト大悲也 夫レヲイカ  
ニト云ニ梅桜松 其外竹花ニヨラス根ヲ切り フクヲ掩テ生花ノ品數ヲ合セテ アザヤカニ立ルト云トモ  
元ヨリ根ヲ切タル花ナレハ暫クハ水ニツナガレテイキクト見ユレドモ間マモナク其儘シホルト捨ルハ在

ルマイカ 思フテ見ルハ哀レナル花ノ有様カナ 今如來ノ大悲トシテ立ル花マデ無常ノ躰ヲアラワサレ 此花ヲ見テ我等ガ無常ヲ思ヒイヨク極樂ヲ願トノ御慈悲ナリ サスレバアナタノ方カラ我ノ信ヲ取ラセウトノ思召ニテ御見セ下サルハ花ト喜フベシ 花ノ姿ヲ申セバ眞首也 正眞胸方寸ノ有様ナリ 前置ノ品々ハ暖ノフクレニシテ四百四病ノアル所也流シヒカハ兩足ニテ添ヤ見マシハ兩腕ナリ 皆人間ノ五躰ヲ表シ玉ヒ木火土金水ノ五ツノカリ物ヲ集メ人間トナリシ事ヲ御知ラセノ大悲ナリ 今御信心ヲ得奉リシ其時ニ命終ハ極樂參リ 其時ノ命延ク自然ト多念一及フ同理是レ定リ事ト申ス也 宿善開發シテ御信心ヲ得奉ル時ハヤ極樂ノ分人トシテ娑婆ノ人ハアラ子ドモ 今何助何右衛門ト凡夫ノ姿在ル内ハ佛トモ云ズ淨土ノ者カト云ハ娑婆ノ人ナリ 是レヲ哥ニ 年ノ内ニ春來ニケリ一年ヲ

去年トヤ云ン今年トヤ云ント

寒歲アクレバ春ノ節ナリ春トイハントスレバ古年ノ内也 我等ガ在リ様モマツ其如ク一念歸命ノ所ニテ凡夫自カノ迷ヒノ命ヲ切テ下サレタレドモ生花ノ如ク暫ク浮世ノ水ニツナガレテ日用ノ有様アザヤカニ見ユレドモ一旦根ヲ切タル花ナレバ悪果ラムスブタメシナク其躰シホレ次第捨テラルハ躰ヲ御見セ下サレ花ノ手足ヲ見ルニ付テモ我等カノ無常ノ有様ヲ思トノ御催促ノ御心故 開ヲ立テサセアナタカラ我々ニ御見セアソバス花ナリ故ニ善キ方ヲコチヌ向ケテ悪キ方ヲ如來様ノ方 向ケルナリ コレニテ花ノスガマデ皆凡夫ヲ憐レム御心ト喜フベシト仰セラレタリ シカシナガラ佛前ノ香花灯明佛供花足ノ五品ヲ莊嚴 皆御敬ヒノ品々ナレバ真宗一流ノ御掟ナリ 貴殿ガ花ノ委細ヲ尋ルニヨリテアラク如クレ是述ルナリト仰セラレタリ

右ノ書 若山坂田屋吉兵衛方ニテ借り写得ス  
文政十歲 亥ノ正月下旬

隱了識 七十一才

右去年七昼夜兀七日御通夜ノ砌拜見 同行中モ初テ聽聞稱喜シ作テレ礼而去ル  
就中中邑勘六同行御花ノ事御受ケ詠メ

ウケヒカキクノ花ヲサスナラバ  
南無阿弥陀佛デソロヒコソスレト

聽聞肝要ノ肯ヲ含ミ キクノ花トハ誠ニ妙ト知ラルヽ也

## あとがき

一、この「蓮如上人」御返答は日高川町和佐浄土真宗西本願寺派光源寺檀家某家所蔵の物である。

二、表紙とも和紙三十六枚に識されている。文字は楷書に近く殆ど解読できたが、一部角に破れがあった。また仏壇に保管していたので、花筒の水でもかえたのか、水の染みがあるが文字には全く影響はない。蠟燭か線香の火が移ったのか角の方で少し焦げた所が二、三枚有った。

(昭和十六年<sup>一九四一年</sup>光源寺焼亡の折、寺から待避した文書がヒヨツとしてそのまま檀家の家に保管され続けたのかも知れない。そうすれば水の染み、角の焼けも腑に落ちる。)

表紙の右肩三行が全く判らない、読めれば此の文書の由来もはっきりするのだが。

また表紙の佛子宗貫は高家西園寺の名簿に名を連ねる和佐ギボシの子孫に違いなく思われる。

一、内容は表題の通り、蓮如上人が紀州冷水浦喜六大夫方(冷水道場)向かう途中、泉州貝塚久昌寺に逗留の折、北永穂の権守と申す社人の質問に対する返答である。

二、冷水浦に喜六大夫が冷水道場を開設したのは文明八(一四七六)年と云われるから、蓮如上人熊野詣の時の出来事だろう。

一、質問と返答は浄土真宗の教義(蓮如上人一代記聞書三百十四条)だろうが、これを隠した人が文政十(一七二七)年に坂田屋吉兵衛から借り書きしている。坂田屋吉兵衛、隠了、中邑勘六なる人物が判

らない。

平成二十五(二〇一三)年三月二十三日

清水 章博